

稲沢市コミュニティバス  
及びコミュニティタクシー  
利用状況等報告書

平成24年 11月

市長公室地域振興課

# 目 次

1	コミュニティバス事業の概要及び経緯	1
2	コミュニティバスの利用状況	1
(1)	コミュニティバスの1日当りの利用者数	1
(2)	コミュニティバスの1便当りの利用者数	2
(3)	コミュニティバスの曜日別利用者数	6
(4)	コミュニティバスの追加便運行状況	7
3	コミュニティタクシーの利用状況	9
4	コミュニティバスの利用者1人当りの運行経費における市負担額	13

## 1 コミュニティバス事業の概要及び経緯

稲沢市地域公共交通会議で協議した『コミュニティバス運行事業計画』に基づいて、平成20年7月1日から平成22年6月30日までの2年間、2路線（東西幹線、南北幹線）を乗車定員9人の運行車両3台（東西幹線2台、南北幹線1台）でコミュニティバスを、また、旧祖父江町区域内でタクシー車両によるコミュニティタクシーを試行運行しました。

同会議では、この期間における利用状況、乗降調査及び市民アンケートの結果を研究・分析し、『コミュニティバス運行事業計画』における課題と問題点を整理して、利便性の向上等を目的として運行路線、運行車両及び時刻表等の変更について協議検討を重ね、『同計画』の変更を行いました。

平成22年6月に中部運輸局から運行事業計画変更の認可を得て、平成22年7月1日から3路線4系統として祖父江・下津線（ふれあいの郷系統及び地泉院系統）を乗車定員14人の運行車両2台で、平和・千代田線及び大里循環線を乗車定員9人の運行車両2台の計4台によるコミュニティバスと、旧祖父江町区域内のコミュニティタクシーによる本格運行を開始し、2年4か月が経過しています。

この『報告書』は、平成22年7月1日（木）から平成24年10月31日（水）までの期間におけるコミュニティバス並びにコミュニティタクシーの利用状況についてまとめたものです。

## 2 コミュニティバスの利用状況

### (1) コミュニティバスの1日当りの利用者数

コミュニティバスの1日当りの利用者数は、2～3ページに掲載した表のとおりとなります。

試行運行期間（平成20年7月1日～平成22年6月30日）における1日当りの利用者数の平均は152人でしたが、本格運行を開始した平成22年7月1日から平成23年6月30日まで（本格運行1年目）の1日当りの利用者数の平均は183人（施行運行期間との比約20%増）となっています。

本格運行2年目となる平成23年7月1日から平成24年6月30日までの1日当たりの利用者数は210人となっており、1年目と比べて約15%増えています。

これは、祖父江・下津線と大里循環線の利用者数が運行1年目より増加したことに由来するものです。

本格運行3年目となる平成24年7月1日から平成24年10月31日までの1日当たりの利用者数は、214人となっており、2年目と比べて約2%の微増となっています。

○ コミュニティバス路線別の利用者数

単位：人

路線 月（ ） は運行日数	祖父江・下津線			平和・千代田線			大里 循環線 〔6便〕	合計	1日当り 利用者数
	JR 稲沢 駅方面 〔7便〕	祖父江 方面 〔8便〕	小 計	市民会 館行き 〔4便〕	千代田・ 平和方面 〔4便〕	小 計			
平成 22 年 7 月 (26 日)	1,649	1,403	3,052	303	252	555	1,008	4,615	178
8 月 (26 日)	1,672	1,458	3,130	322	324	646	940	4,716	181
9 月 (23 日)	1,553	1,385	2,938	328	280	608	1,054	4,600	192
10 月 (25 日)	1,646	1,482	3,128	350	285	635	954	4,717	189
11 月 (24 日)	1,544	1,375	2,919	290	229	519	855	4,293	179
12 月 (23 日)	1,545	1,351	2,896	304	247	551	832	4,279	186
平成 23 年 1 月 (23 日)	1,341	1,172	2,513	267	264	531	755	3,799	166
2 月 (22 日)	1,420	1,178	2,598	277	283	560	776	3,934	179
3 月 (26 日)	1,795	1,560	3,355	323	332	655	965	4,975	191
4 月 (25 日)	1,502	1,322	2,824	306	316	622	933	4,379	175
5 月 (23 日)	1,492	1,321	2,813	250	247	497	975	4,285	186
6 月 (26 日)	1,767	1,582	3,349	298	282	580	1,152	5,081	195
<b>1 年目の計</b>	<b>18,926</b>	<b>16,589</b>	<b>35,515</b>	<b>3,618</b>	<b>3,341</b>	<b>6,959</b>	<b>11,199</b>	<b>53,673</b>	<b>183</b>
平成 23 年 7 月 (25 日)	1,711	1,592	3,303	330	332	662	1,195	5,160	206
8 月 (27 日)	1,912	1,689	3,601	320	301	621	1,295	5,517	204
9 月 (24 日)	1,597	1,446	3,043	271	288	559	1,214	4,816	201
10 月 (25 日)	1,807	1,618	3,425	284	294	578	1,283	5,286	211
11 月 (24 日)	1,931	1,644	3,575	289	291	580	1,158	5,313	221
12 月 (23 日)	1,858	1,580	3,438	296	261	557	1,210	5,205	226
平成 24 年 1 月 (23 日)	1,534	1,320	2,854	266	247	513	944	4,311	187
2 月 (23 日)	1,642	1,507	3,149	307	322	629	1,116	4,894	213
3 月 (26 日)	2,030	1,788	3,818	307	309	616	1,188	5,622	216
4 月 (24 日)	1,811	1,567	3,378	306	323	629	1,182	5,189	216
5 月 (24 日)	1,730	1,576	3,306	286	260	546	1,161	5,013	209
6 月 (26 日)	1,803	1,715	3,518	270	315	585	1,211	5,314	204
<b>2 年目の計</b>	<b>21,366</b>	<b>19,042</b>	<b>40,408</b>	<b>3,532</b>	<b>3,543</b>	<b>7,075</b>	<b>14,157</b>	<b>61,640</b>	<b>210</b>

単位：人

路線 月（ ） は運行日数	祖父江・下津線			平和・千代田線			大里 循環線 〔6便〕	合計	1日当り 利用者数
	JR 稲沢 駅方面 〔7便〕	祖父江 方面 〔8便〕	小 計	市民会 館行き 〔4便〕	千代田・ 平和方面 〔4便〕	小 計			
平成 24 年 7 月 (25 日)	1,778	1,657	3,435	324	358	682	1,212	5,329	213
8 月 (27 日)	2,056	1,863	3,919	339	363	702	1,237	5,858	217
9 月 (23 日)	1,633	1,524	3,157	247	250	497	1,143	4,797	209
10 月 (26 日)	1,914	1,688	3,602	329	306	635	1,387	5,624	216
3 年目の計	7,381	6,732	14,113	1,239	1,277	2,516	4,979	21,608	214
合計	47,673	42,363	90,036	8,389	8,161	16,550	30,335	136,921	—
平均	1,703	1,513	3,216	300	291	591	1,083	4,890	199

## (2) コミュニティバスの 1 便当りの利用者数

コミュニティバスの 1 便当りの利用者数は、4～5 ページの表のとおりとなります。

1 便当りの利用者数の変化を路線別に試行運行期間と本格運行期間で比較してみると、東西幹線 上り(ふれあいの郷⇒下津市民センター)7.8 人に対して祖父江・下津線 JR 稲沢駅方面(ふれあいの郷または地泉院前⇒リーフウォーク稲沢)9.9 人(約 27%増)、東西幹線 下り(下津市民センター⇒ふれあいの郷)8.0 人に対して祖父江・下津線 祖父江方面(リーフウォーク稲沢⇒ふれあいの郷または地泉院前)7.7 人(約 4%減)となっています。

また、南北幹線は運行距離の短縮を図るために平和・千代田線と大里循環線の 2 路線に分けたので、それぞれの路線と比較してみると、南北幹線 上り(ヨシヅヤ平和店⇒国府宮駅)3.7 人に対して平和・千代田線 市民会館・中央図書館行き 3.0 人(約 19%減)、南北幹線 下り(国府宮駅⇒ヨシヅヤ平和店)3.7 人に対して平和・千代田線 千代田・平和方面 3.0 人(約 19%減)、南北幹線 上り・下りを合わせた 3.7 人に対して大里循環線 7.3 人(約 97%増)となっています。

大里循環線は運行路線の区間「アピタ稲沢店～市民会館・中央図書館」が祖父江・下津線と重複しており、この区間の利用者が多いため、南北幹線と比較いたしますと大幅な利用者数の増加となっています。

次に、本格運行 1 年目と比較した 2 年目、3 年目における 1 便当りの利用者数の変化を路線別にみますと、祖父江・下津線 JR 稲沢駅方面は 1 年目が 9.2 人、2 年目が 10.4 人(1 年目との比 約 13%増)、3 年目も 10.4 人(2 年目との比 増減なし)、同線 祖父江方面は 1 年目が 7.1 人、2 年目が 8.1 人(1 年目との比 約 14%増)、3 年目が 8.3 人(2 年目との比 約 2%増)となっています。

平和・千代田線 市民会館・中央図書館行きは 1 年目が 3.1 人、2 年目が 3.0 人(1 年目との比 約 3%減)、3 年目が 3.1 人(2 年目との比 約 3%増)、同線 千代田・平和方

面は1年目が2.9人、2年目が3.0人（1年目との比約3%増）、3年目が3.2人（2年目との比約7%増）となっています。

大里循環線は1年目が6.4人、2年目が8.0人（1年目との比約25%増）、3年目が8.2人（2年目との比約3%増）となっています。

なお、同線の利用者のうち循環部分における停留所で乗降する割合は、利用者アンケート調査（平成24年9月3日～8日実施）結果によると約11%となっています。

#### ○ コミュニティバス1便当りの利用者数

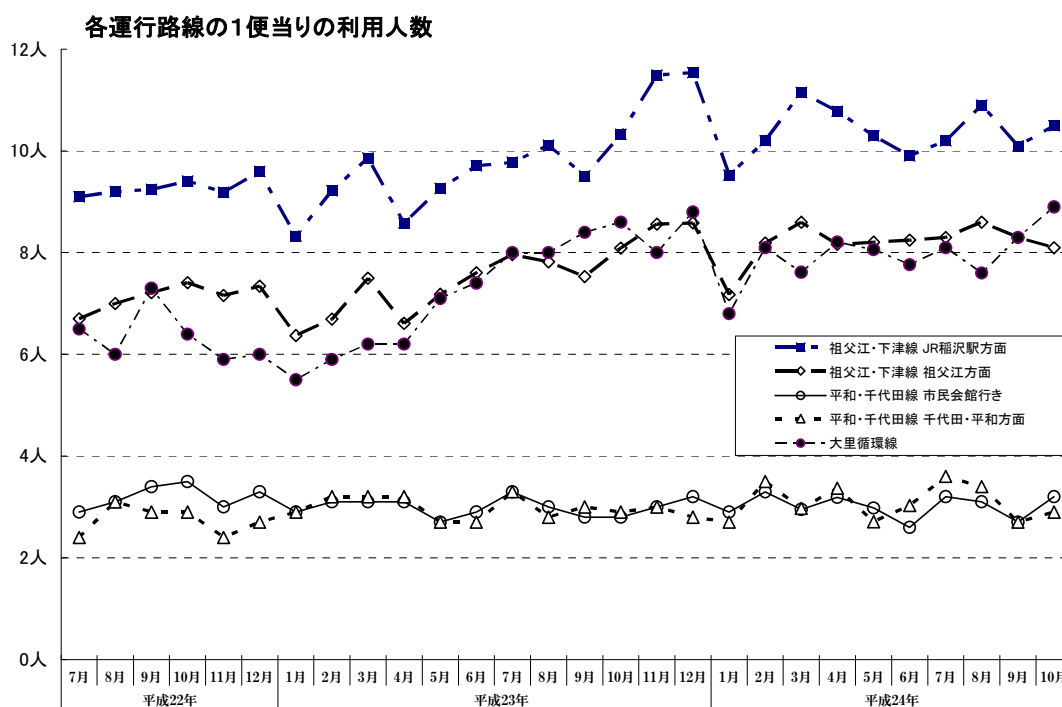
単位：人

路線 年月	祖父江・下津線		平和・千代田線		大里循環線 〔6便〕
	JR 稲沢駅方面 〔7便〕	祖父江方面 〔8便〕	市民会館行き 〔4便〕	千代田・ 平和方面 〔4便〕	
平成22年7月	9.1	6.7	2.9	2.4	6.5
8月	9.2	7.0	3.1	3.1	6.0
9月	9.2	7.2	3.4	2.9	7.3
10月	9.4	7.4	3.5	2.9	6.4
11月	9.2	7.2	3.0	2.4	5.9
12月	9.6	7.3	3.3	2.7	6.0
平成23年1月	8.3	6.4	2.9	2.9	5.5
2月	9.2	6.7	3.1	3.2	5.9
3月	9.9	7.5	3.1	3.2	6.2
4月	8.6	6.6	3.1	3.2	6.2
5月	9.3	7.2	2.7	2.7	7.1
6月	9.7	7.6	2.9	2.7	7.4
<b>1年目の平均</b>	<b>9.2</b>	<b>7.1</b>	<b>3.1</b>	<b>2.9</b>	<b>6.4</b>
7月	9.8	8.0	3.3	3.3	8.0
8月	10.1	7.8	3.0	2.8	8.0
9月	9.5	7.5	2.8	3.0	8.4
10月	10.3	8.1	2.8	2.9	8.6
11月	11.5	8.6	3.0	3.0	8.0
12月	11.5	8.6	3.2	2.8	8.8
平成24年1月	9.5	7.2	2.9	2.7	6.8
2月	10.2	8.2	3.3	3.5	8.1
3月	11.2	8.6	3.0	3.0	7.6
4月	10.8	8.2	3.2	3.4	8.2
5月	10.3	8.2	3.0	2.7	8.1
6月	9.9	8.2	2.6	3.0	7.8
<b>2年目の平均</b>	<b>10.4</b>	<b>8.1</b>	<b>3.0</b>	<b>3.0</b>	<b>8.0</b>

単位：人

路線 年月	祖父江・下津線		平和・千代田線		大里循環線 〔6便〕
	JR 稲沢駅方面 〔7便〕	祖父江方面 〔8便〕	市民会館行き 〔4便〕	千代田・ 平和方面 〔4便〕	
7月	10.2	8.3	3.2	3.6	8.1
8月	10.9	8.6	3.1	3.4	7.6
9月	10.1	8.3	2.7	2.7	8.3
10月	10.5	8.1	3.2	2.9	8.9
<b>3年目の平均</b>	<b>10.4</b>	<b>8.4</b>	<b>3.0</b>	<b>3.2</b>	<b>8.0</b>
<b>通年の平均</b>	<b>9.9</b>	<b>7.7</b>	<b>3.0</b>	<b>3.0</b>	<b>7.3</b>

次のグラフは、本格運行開始後の1便当りの利用者数の推移を運行路線別に示したものです。



## (2) コミュニティバスの曜日別利用者数

次の表は、平成22年7月1日から平成24年10月31日までの1日当りの利用者数を曜日別に示したものです。

3路線とも月曜日から金曜日までの利用者数には大差ありませんが、土曜日における利用者数と平日における利用者数の平均を比較しますと、祖父江・下津線ふれあいの郷系統の土曜日は約18%の減、地泉院系統は約26%の減であり、平和・千代田線は差が無く、大里循環線は約26%の減となっています。

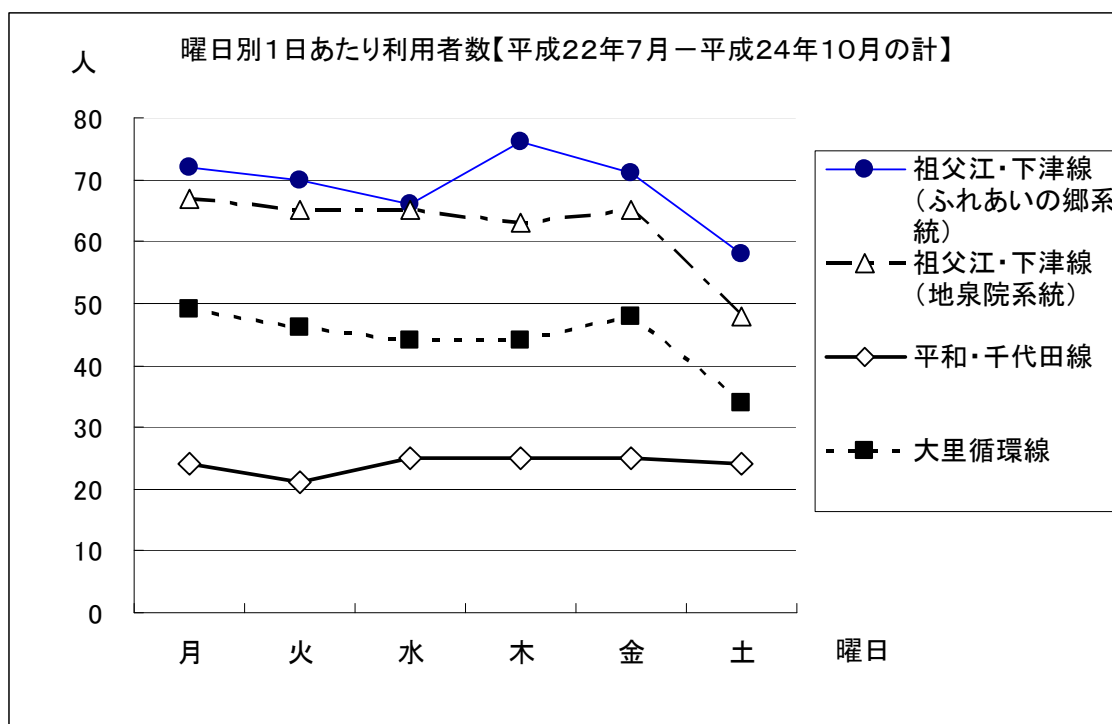
平和・千代田線以外の路線における土曜日の利用者数は、平日と比較して少なくなっています。

### ○ 曜日別1日当りの利用者数

単位：人

路線 曜日	祖父江・下津線		平和・ 千代田線	大里循環線
	ふれあいの郷系統	地泉院系統		
月曜日	72	67	24	49
火曜日	70	65	21	46
水曜日	66	65	25	44
木曜日	75	63	25	44
金曜日	71	65	25	48
土曜日	58	48	23	34
平日の平均	71	65	24	46

次のグラフは、曜日別1日当りの利用者数を運行路線別に示したものです。





### (3) コミュニティバスの追加便運行状況

定員超過発生時に運行した追加便の状況は、8ページの表のとおりです。

追加便の運行台数は、1日当りに換算すると、祖父江・下津線 JR 稲沢駅方面が 0.4 台、同線 祖父江方面が 0.2 台、平和・千代田線 市民会館・中央図書館行きが 0.02 台、同線 千代田・平和方面が 0.008 台、大里循環線が 0.06 台と、試行運行期間における追加便の1日当りの運行台数（東西幹線上り 1.0 台、下り 1.2 台）と比べて大幅に減少し、恒常的に追加便が運行されていた状況は解消しています。

定員超過発生を解消を目的として乗車定員 14 人の運行車両を祖父江・下津線に導入したこと、また、利用者が多い区間「アピタ稲沢店～市民会館・中央図書館」を祖父江・下津線と大里循環線の路線で重複運行したことの効果が現れています。

このような状況にありますが、追加便の運行が生じやすい便は、祖父江・下津線 JR 稲沢駅方面の第 3 便、第 4 便及び第 5 便、同線 祖父江方面の第 2 便となっています。

なお、祖父江・下津線の平成 23 年 11 月と 12 月の追加便の運行台数及び利用者数が他の月より増加しているのは、荻須記念美術館で「特別展 生誕 110 年記念 荻須高德展」が開催（平成 23 年 10 月 29 日（土）～12 月 18 日（日））されたため、区間「国府宮駅～美術館・保健センター」の利用者が多かったことによるものです。

この特別展開催期間における祖父江・下津線の追加便の運行状況をみると、同線 JR 稲沢駅方面（ふれあいの郷または地泉院前⇒リーフウォーク稲沢）の追加便の運行台数のうち「美術館・保健センター⇒国府宮駅」は、10 月が 3 台（同月の 60%）、11 月が 20 台（同 61%）、12 月が 11 台（同 58%）であり、同線 祖父江方面（リーフウォーク稲沢⇒ふれあいの郷または地泉院前）の追加便運行台数のうち「国府宮駅⇒美術館・保健センター」は、11 月が 11 台（同月の 61%）、12 月が 3 台（同 50%）となっています。

特別展終了後は、平成 24 年 3 月、4 月及び 8 月の祖父江・下津線 JR 稲沢駅方面（ふれあいの郷または地泉院前⇒リーフウォーク稲沢）、平成 24 年 3 月の同線 祖父江方面（リーフウォーク稲沢⇒ふれあいの郷または地泉院前）における追加便の運行台数及び利用者数の増加については、イベントや行事の開催等といった特段の理由はありませんが、3 月と 8 月は学校の春休み・夏休み期間にあたり、他の月と比べて学生・生徒の利用が多かったことが理由の一つと考えられます。

○ 各路線の追加便運行状況

路線 ( )は 運行日数	祖父江・下津線				平和・千代田線				大里循環線	
	JR 稲沢駅方面		祖父江方面		市民会館行き		千代田・平和方面			
	台数	人数	台数	人数	台数	人数	台数	人数	台数	人数
平成 22 年										
7月(26日)	3	8	0	0	4	12	0	0	2	4
8月(26日)	7	22	2	3	2	4	0	0	1	1
9月(24日)	5	14	4	10	1	1	0	0	3	4
10月(25日)	4	8	1	1	2	6	0	0	3	7
11月(24日)	7	26	4	11	0	0	0	0	1	2
12月(23日)	4	9	2	5	0	0	0	0	0	0
平成 23 年										
1月(23日)	4	4	0	0	0	0	0	0	1	3
2月(22日)	2	6	0	0	1	1	0	0	0	0
3月(26日)	10	26	5	14	0	0	0	0	2	4
4月(25日)	3	4	2	5	1	2	0	0	0	0
5月(23日)	1	4	1	5	0	0	0	0	1	2
6月(26日)	8	22	1	1	0	0	0	0	1	4
7月(25日)	6	13	0	0	1	2	1	2	2	5
8月(27日)	9	22	8	22	0	0	0	0	1	1
9月(24日)	10	25	2	5	0	0	0	0	0	0
10月(25日)	5	13	8	15	0	0	0	0	3	9
11月(24日)	33	100	18	54	0	0	1	3	2	5
12月(23日)	19	52	6	15	0	0	0	0	3	7
平成 24 年										
1月(23日)	3	10	2	4	0	0	0	0	0	0
2月(23日)	9	25	6	21	0	0	0	0	3	4
3月(26日)	21	45	12	28	0	0	1	3	2	5
4月(24日)	14	42	6	15	2	4	1	2	1	1
5月(24日)	8	21	6	15	0	0	0	0	2	4
6月(26日)	6	14	8	21	0	0	0	0	1	4
7月(25日)	5	14	8	16	0	0	1	3	1	1
8月(27日)	21	59	6	12	0	0	0	0	4	8
9月(23日)	3	9	6	15	0	0	0	0	0	0
10月(26日)	11	29	5	12	0	0	0	0	2	6
合 計	241	646	129	325	14	32	5	13	42	91
平均(月当り)	8.6	23.1	4.6	11.6	0.5	1.1	0.2	0.5	1.5	3.3
平均(日当り)	0.4	0.9	0.2	0.5	0.02	0.05	0.008	0.02	0.06	0.1

### 3 コミュニティタクシーの利用状況

祖父江町地内で運行しているコミュニティタクシーは、コミュニティバスの運行路線変更及び運行便数増加に伴って、タクシー乗り場の新設・移設またはバス停留所への変更を行いましたが、タクシー乗り場数 12 か所は変更していません。

なお、タクシー乗り場と接続するバス停留所は、施設の休館日、利用者の安全面を考慮して「祖父江の森」から「祖父江支所」に変更しています。

平成 22 年 7 月 1 日から平成 24 年 10 月 31 日までのコミュニティタクシーの利用者状況は、次の表のとおりです。

1 か月当りの平均利用件数は、試行運行期間中の同件数 4.5 件から 1.4 件（約 69%減）と、より低調となっています。

これは、定期的な利用があったタクシー乗り場「中屋敷」、「長岡」、「神明津」、「中牧」を、バス停留所に変更したことが理由の一つであると考えております。

#### ○ コミュニティタクシーの利用件数及び利用者数

年 月	利用件数 〔単位：件〕	利用者数 〔単位：件〕	年 月	利用件数 〔単位：件〕	利用者数 〔単位：件〕
平成 22 年 7 月	3	4	平成 23 年 11 月	0	0
8 月	1	1	12 月	2	2
9 月	0	0	平成 24 年 1 月	1	1
10 月	2	6	2 月	2	2
11 月	2	2	3 月	0	0
12 月	2	2	4 月	3	3
平成 23 年 1 月	0	0	5 月	0	0
2 月	0	0	6 月	2	2
3 月	4	8	7 月	2	2
4 月	0	0	8 月	1	1
5 月	2	2	9 月	3	4
6 月	2	2	10 月	3	5
7 月	1	1			
8 月	0	0			
9 月	0	0	計	39	51
10 月	1	1	1 か月の平均	1.4	1.8

この利用状況を、区間別に往路（各タクシー乗り場⇒停留所「祖父江支所」）と復路（停留所「祖父江支所」⇒各タクシー乗り場）に分けて見てみます。

10 ページに掲載した表は往路の利用状況で、本格運行 1 年目は「富士美ヶ丘」が 5 件、「ナビタウン」と「馬飼」が各 2 件、「甲新田」と「野田北」が各 1 件の利用がありました。同 2 年目は「ナビタウン」で 2 件、同 3 年目は「甲新田」で 1 件の利用となっています。

また、本格運行開始後、タクシー乗り場全 12 か所のうち 7 か所では、1 件も利用が無い状況が続いています。

○ 往路（各タクシー乗り場⇒停留所「祖父江支所」） ※（ ）は人数

	乗車停留所	利用件数	月 計
平成 22 年 7 月	富士美ヶ丘	1 (1)	2 (3)
	ナビタウン	1 (2)	
8 月	—	0 (0)	0 (0)
9 月	—	0 (0)	0 (0)
10 月	甲新田	1 (3)	1 (3)
11 月	ナビタウン	1 (1)	2 (2)
	富士美ヶ丘	1 (1)	
12 月	富士美ヶ丘	1 (1)	2 (2)
	富士美ヶ丘	1 (1)	
平成 23 年 1 月	—	0 (0)	0 (0)
2 月	—	0 (0)	0 (0)
3 月	馬 飼	1 (1)	3 (5)
	馬 飼	1 (3)	
	富士美ヶ丘	1 (1)	
4 月	—	0 (0)	0 (0)
5 月	野田北	1 (1)	1 (1)
6 月	—	0 (0)	0 (0)
<b>1 年目の計</b>	—	—	<b>1 1 (16)</b>
7 月	—	0 (0)	0 (0)
8 月	—	0 (0)	0 (0)
9 月	—	0 (0)	0 (0)
10 月	—	0 (0)	0 (0)
11 月	—	0 (0)	0 (0)
12 月	—	0 (0)	0 (0)
平成 24 年 1 月	—	0 (0)	0 (0)
2 月	—	0 (0)	0 (0)
3 月	—	0 (0)	0 (0)
4 月	ナビタウン	1 (1)	1 (1)
5 月	—	0 (0)	0 (0)
6 月	ナビタウン	1 (1)	1 (1)
<b>2 年目の計</b>	—	—	<b>2 (2)</b>
7 月	—	0 (0)	0 (0)
8 月	—	0 (0)	0 (0)
9 月	—	0 (0)	0 (0)
10 月	甲新田	1 (2)	1 (2)
<b>3 年目の計</b>	—	<b>1 (2)</b>	<b>1 (2)</b>
<b>合 計</b>	—	<b>1 4 (20)</b>	<b>1 4 (20)</b>

11～12 にページに掲載した表は復路の利用状況で、本格運行1年目は「大牧」が3件、「山崎」、「甲新田」、「馬飼」、「野田北」が各1件の利用となっています。

同2年目は「大牧」が9件、「馬飼」が1件と、件数は微増したものの、利用があった乗り場の数は5か所から2か所へ減少しました。

同3年目は「大牧」が5件、「西鶴之本」、「富士美ヶ丘」、「甲新田」が各1件となっています。

同3年目になって「西鶴之本」と「富士美ヶ丘」で初めて利用がありましたが、タクシー乗り場全12か所のうち5か所では1件も利用が無い状況が続いています。

## ○ コミュニティタクシーの区間別利用状況

### 復路（停留所「祖父江支所」⇒各タクシー乗り場）

※（）は人数

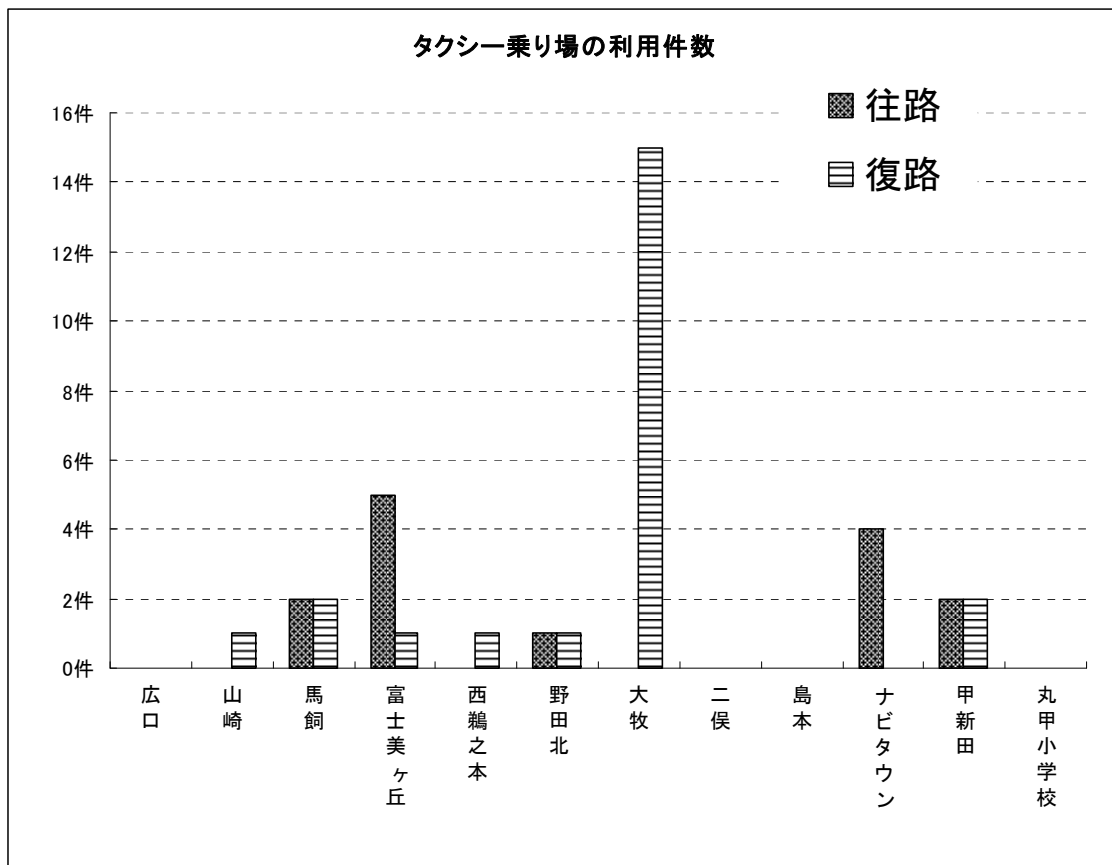
	降車停留所	利用件数	月 計
平成22年7月	山 崎	1 (1)	1 (1)
8月	大 牧	1 (1)	1 (1)
9月	—	0 (0)	0 (0)
10月	甲新田	1 (3)	1 (3)
11月	—	0 (0)	0 (0)
12月	—	0 (0)	0 (0)
平成23年1月	—	0 (0)	0 (0)
2月	—	0 (0)	0 (0)
3月	馬 飼	1 (3)	1 (3)
4月	—	0 (0)	0 (0)
5月	野田北	1 (1)	1 (1)
6月	大 牧	1 (1)	2 (2)
	大 牧	1 (1)	
<b>1年目の計</b>	—	—	<b>7 (11)</b>
7月	大 牧	1 (1)	1 (1)
8月	—	0 (0)	0 (0)
9月	—	0 (0)	0 (0)
10月	馬 飼	1 (1)	1 (1)
11月	—	0 (0)	0 (0)
12月	大 牧	1 (1)	2 (2)
	大 牧	1 (1)	
平成24年1月	大 牧	1 (1)	1 (1)
2月	大 牧	1 (1)	2 (2)
	大 牧	1 (1)	
3月	—	0 (0)	0 (0)
4月	大 牧	1 (1)	2 (2)
	大 牧	1 (1)	
5月	—	0 (0)	0 (0)
6月	大 牧	1 (1)	1 (1)
<b>2年目の計</b>	—	—	<b>10 (10)</b>

7月	大 牧	1 (1)	2 (2)
	大 牧	1 (1)	
8月	西鶺之本	1 (1)	1 (1)
9月	大 牧	1 (1)	3 (4)
	大 牧	1 (1)	
	富士美ヶ丘	1 (2)	
10月	甲新田	1 (2)	2 (3)
	大 牧	1 (1)	
3年目の計	—	—	8 (10)
合 計	—	25 (31)	25 (31)

次のグラフは、前掲の区間別利用状況の表を元にして、各タクシー乗り場の利用件数を表したものです。

本格運行開始後、「広口」、「二俣」、「島本」、「丸甲小学校」は1件の利用もない状況が続いています。

今後、『運行事業計画』の見直しを行うに当たり、利用のあるタクシー乗り場をバス停留所に変更することを検討する必要がありますが、低調な利用状況が続く場合は、コミュニティタクシー運行の継続の是非も検討すべき必要があると考えています。



#### 4 コミュニティバスの利用者1人当りの運行経費における市負担額

コミュニティバスの運行経費における市負担額は、運行事業者（名鉄西部交通株式会社）と契約した運行管理委託料から利用料金を差し引きした額となります。

そのため、利用者数が多いほど、市が負担する運行経費は少なくなります。

今後、限られた財源の中で利便性の向上を目指して『コミュニティバス運行事業計画』の見直しを検討していく上で、運行経費は重要な項目の一つと考えています。

次ページからのグラフは、各運行路線の平成22年7月1日の本格運行開始から1年目（平成22年7月1日から平成23年6月30日まで）、2年目（平成23年7月1日から平成24年6月30日まで）、3年目（平成24年7月1日から10月31日まで）におけるそれぞれの利用者1人当たりの運行経費における市負担額の推移を表したものです。

なお、各運行路線における運行経費の積算数値は、次の表のとおりです。

【利用者1人当たりの運行経費の積算数値】

項目	金額	備考
祖父江・下津線 ふれあいの郷系統	1日1台当り 43,800円	平成22年7月1日～平成23年3月31日
	1日1台当り 44,500円	平成23年4月1日～平成24年3月31日
	1日1台当り 44,700円	平成24年4月1日～10月31日
祖父江・下津線 地泉院系統	1日1台当り 42,900円	平成22年7月1日～平成23年3月31日
	1日1台当り 43,100円	平成23年4月1日～平成24年3月31日
	1日1台当り 43,800円	平成24年4月1日～10月31日
平和・千代田線	1日1台当り 39,500円	平成22年7月1日～平成23年3月31日
	1日1台当り 38,900円	平成23年4月1日～平成24年3月31日
	1日1台当り 39,700円	平成24年4月1日～10月31日
大里循環線	1日1台当り 38,500円	平成22年7月1日～平成23年3月31日
	1日1台当り 38,000円	平成23年4月1日～平成24年3月31日
	1日1台当り 38,600円	平成24年4月1日～10月31日
大里駅乗り入れ 構内営業料	1月あたり 8,453円	平成22年7月1日～平成24年10月31日は、大里循環線の運行経費に計上
国府宮駅乗り入れ 構内営業料	1月あたり 24,000円	平成22年7月1日～平成24年10月31日において、3路線2系

		統の運行経費に按分して計上
追加便	距離制運賃	追加便を運行した路線の運行経費に計上

次のグラフ1は、各運行路線の本格運行1年目の利用者1人当たりの運行経費における市負担額の推移を表したものです。

祖父江・下津線 ふれあいの郷系統の市負担額は、平成23年1月が579円と最も高く、同年4月の550円と同年3月の459円（最低額）を除いた他の月は、475円～524円の間で推移しています。

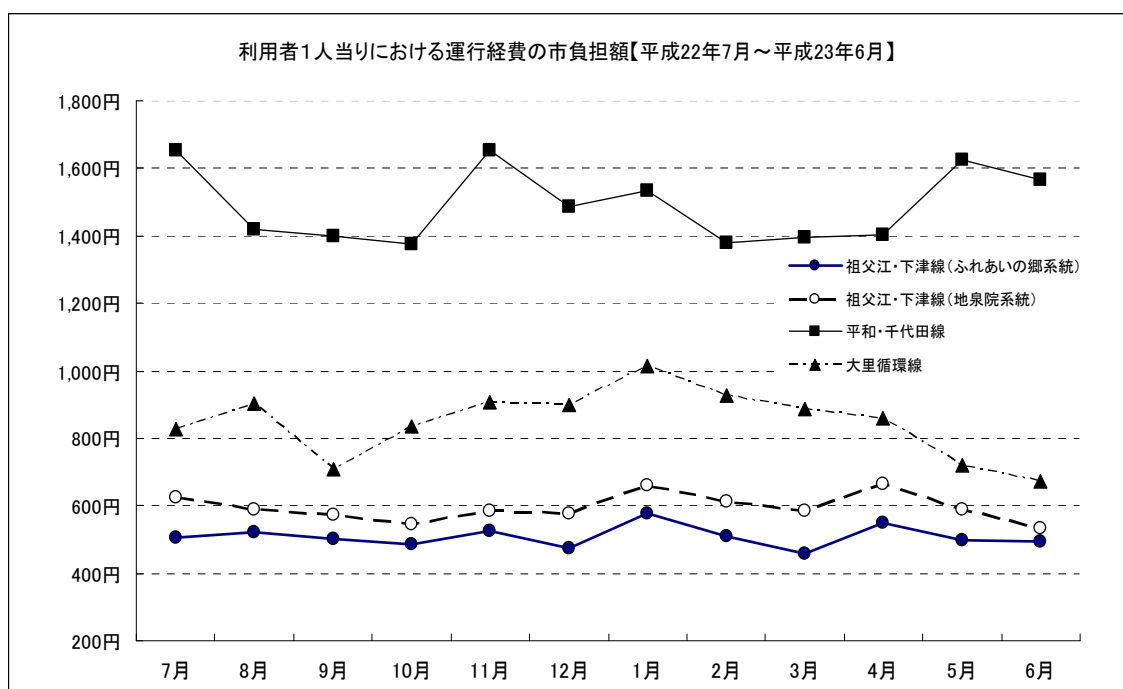
同線 地泉院系統の市負担額は、平成23年4月が663円と最も高く、同年1月の660円と同年6月の532円（最低額）を除いた他の月は、545円～623円の間で推移しています。

平和・千代田線の市負担額は、平成22年7月の1,655円を最高額として1,500円を超える月が5回あり、他の月は1,379円～1,488円の間で推移し、平成22年10月の1,374円が最低額となっています。

大里循環線の市負担額は、平成22年9月、23年1月の1,015円（最高額）、同年6月の674円（最低額）を除いた他の月は、709円～926円の間で推移しています。

なお、各運行路線の市負担額の月平均は、祖父江・下津線 ふれあいの郷系統が508円、同線 地泉院系統が595円、平和・千代田線が1,491円、大里循環線が847円であり、平和・千代田線の市負担額の1か月当りの平均は、祖父江・下津線 ふれあいの郷系統の市負担額の約3倍となっています。

グラフ1





次のグラフ2は、各運行路線の本格運行2年目の利用者1人当たりの運行経費における市負担額の推移を表したものです。

祖父江・下津線 ふれあいの郷系統の市負担額は、平成24年1月が552円と最も高く、同年2月の510円を除いた他の月は500円を下回っており、平成23年12月の410円が最も低くなっています。

同線 地泉院系統の市負担額は、平成23年9月が575円と最も高くなっていますが、この月を除いて430円（最低額）～516円の間で推移しています。

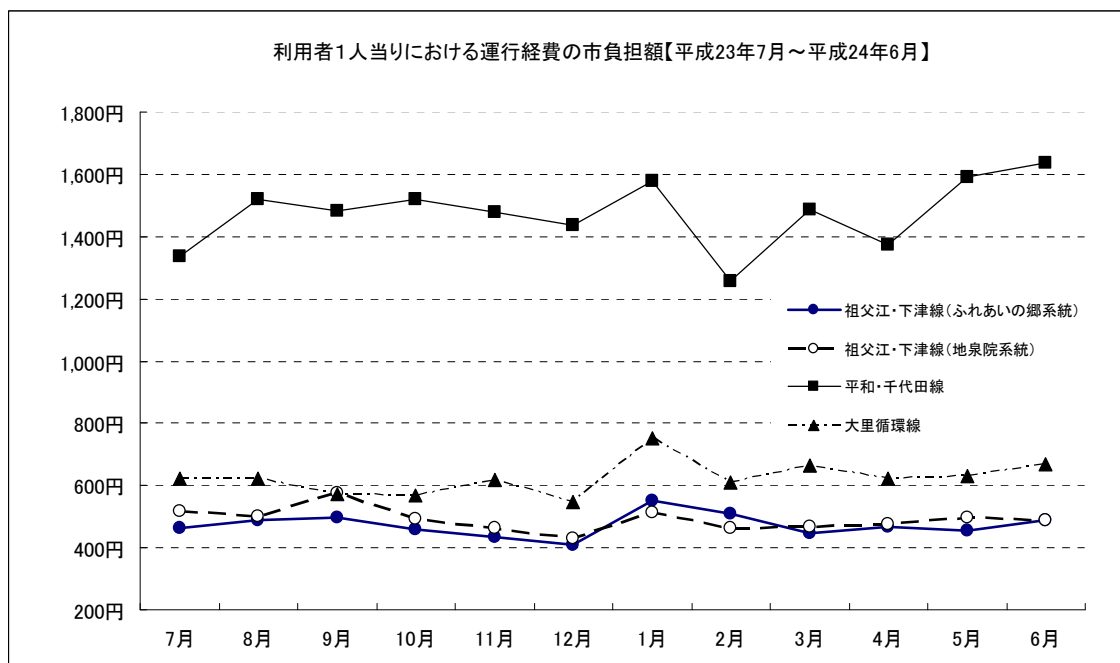
平和・千代田線の市負担額は、平成24年6月の1,639円を最高額として1,500円を超える月が5回あり、他の月は1,255円（最低額）～1,485円の間で推移しています。

大里循環線の市負担額は、平成24年1月が752円と最も高く、この月を除いた他の月は548円（最低額）～667円の間で推移しています。

各運行路線の市負担額の1か月当たりの平均は、祖父江・下津線 ふれあいの郷系統が473円（運行1年目と比べて約7%減）、同線 地泉院系統が490円（同約18%減）、平和・千代田線が1,475円（同約1%減）、大里循環線が624円（同約24%減）であり、これは祖父江・下津線 地泉院系統と大里循環線の利用者数の増加によるものです。

平和・千代田線の市負担額の月平均は、運行1年目と同様に祖父江・下津線 ふれあいの郷系統の市負担額の約3倍となっており、今後、運行路線の見直しを検討するにおいて参考すべき点であると考えています。

グラフ2



次のグラフ3は、各運行路線の本格運行3年目（4か月間）の利用者1人当たりの運行経費における市負担額の推移を表したものです。

祖父江・下津線 ふれあいの郷系統の市負担額は、運行2年目の1か月あたりの平均473円より低い446円（最低額）～464円で推移しています。

同線 地泉院系統の市負担額は、平成24年8月は482円（最低額）、9月は487円と、運行2年目の1か月あたりの平均490円より低くなりましたが、7月は506円、10月は499円と、その額を上回りました。

平和・千代田線の市負担額は、平成24年9月は1,651円と、運行2年目の最高額1,639円を上回りましたが、他の月は1,313円（最低額）～1,468円で推移しており、運行2年目の1か月あたりの平均1,475円より低くなっています。

大里循環線の市負担額は、平成24年7月は628円、8月は676円と、運行2年目の1か月あたりの平均624円を上回りましたが、9月は609円、10月は556円と低くなっています。

グラフ3

